

先日の土曜日(7/14)、長距離自然歩道「[ダイヤモンドトレール](#)」を歩きました。  
その途中、沿道で見たチョウチョを紹介します。

### 写真 ・ : ジャコウアゲハ(麝香揚羽)

前翅長 6 cm 弱のアゲハチョウの仲間です。

雄成虫が腹端から麝香(じゃこう)のような匂いを発することが、命名の由来です。

ゆったりと飛ぶ姿を見ていると、捕食者に狙われやすいのでは? と思いますが、その心配は不要です。

幼虫の食草である「ウマノスズクサ類」には毒があり、成虫になってもその毒成分を体内に保持しているのですから。

というわけで、このジャコウアゲハに擬態(ぎたい)して身を守るチョウもいるのです。

このような擬態は「ベーツ擬態」と呼ばれ、クロアゲハ、オナガアゲハ、アゲハモドキなどがその例です。(無害なものが危険なものに似た形態をとることで身を守る)

### 写真 : ミズイロオナガシジミ

前翅長 2 cm 弱のゼフィルスの仲間です。

体色は水色ではないのですが何故か「ミズイロ」と名付けられ、「オナガ」は後ろ翅に糸状の突起(尾状突起)があることからの命名でしょう。

さて、このシジミチョウ、黒い尾状突起の先端の白色がよく目立ちます。

翅を閉じてとまっているときに、後ろ翅だけをこするよう動かしている姿をよく見るのですが、このとき、この突起が頭部にある触角に見えてしまうのです。

しかも、その突起の根元には黒い目玉のような斑点と、よく目立つオレンジ色の紋が...  
つまり、... 頭部をこちら(後ろ翅)側に見せかけることで、鳥などの攻撃によるダメージを少なくして、逃げ延びようという作戦らしいのです...

### 写真 : ウラナミシジミ

前翅長 2 cm 弱のシジミチョウで、近年、分布を北に広げている種の一つです。

越冬できるのは房総半島以南くらいまでで、発生を繰り返しながら分布を北に拡大し、秋になると個体数が急増、北海道でも見られるようになります。

なお、越冬することができない房総半島以北等では、冬の訪れとともに死に絶えてしまいます。(死滅回遊魚のようです...)

### 写真 : コチャバネセセリ

前翅長 1.5 cm くらいのセセリチョウの仲間です。

幼虫の食草であるタケ類やササ類の生える林縁部などでよく見られます。

### 写真 ~ : ミドリヒョウモン

そろそろ盛りを過ぎた「オカトラノオ」で吸蜜する姿をとらえました。

・ 枚目が、最後の枚目がです。

幼虫の食草は「タチツボスミレ」です。

















